

子どもの成長と子育て支援に関する アンケート調査結果

令和6年7月
朝 来 市

I 調査概要

1 調査の目的

朝来市では、令和2年3月に「第2期朝来市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、教育・保育・子育て支援の充実を進めてきました。

今回、令和7年度を初年度とする「第3期朝来市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けて、朝来市における教育・保育の「現在の利用状況」や「今後の利用希望」、子育て支援に対する意向やご意見を把握するため、子どもの成長と子育て支援に関する調査を実施しました。

2 調査の種類と実施方法

調査の種類と対象者		調査・実施方法
①就学前児童		
就学前児童の保護者		郵送による配布・回収
②小学生児童		
小学生児童の保護者		学校を通じて保護者への連絡網(さくらメール)を使ったWebによる調査 ※さくらメールによる督促

【調査期間】令和6年3月15日～3月31日

【調査対象地区】市内全域

3 配布と回収状況

調査の種類	配布数	回収数	回収率
① 就学前児童	820	316	38.5%
② 小学生児童	697	317	45.5%
総 計	1,517	633	41.7%

II 調査結果

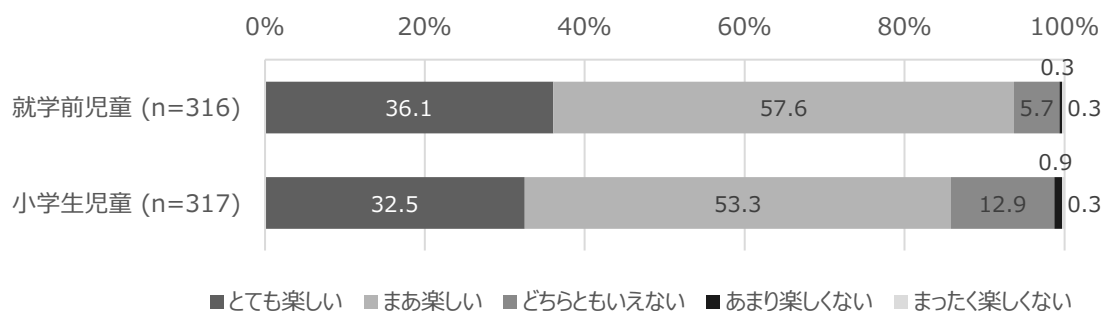
1 子育てを取り巻く状況

- 子育ては、楽しいかどうかについては、就学前児童では「とても楽しい」と「まあ楽しい」を合わせると93.7%、小学生児童では85.8%とともに9割前後と高くなっています。
- 一方、子育てについて不安や負担を感じる程度については、就学前児童では「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせると67.8%、小学生児童では66.0%とともに6割を超えています。子育てに不安や負担を感じる理由についての第1位、2位は、就学前児童、小学生児童ともに「子育てにはお金がかかる」、「生活や気持ちにゆとりがなく、いらだつことがある」となっており、5割を超えています。また、3位以下については順位は違いますが、「子どもが思うようにならないとき、いらだちを感じる」、「仕事と子育ての両立が難しい」、「子どもの性格や癖などが心配である」と共通した項目があがっています。
- 子育てにおける孤立感については、就学前児童、小学生児童ともに「あまり感じない」と「まったく感じない」を合わせると7割を超え高くなっている一方、「いつも感じる」と「ときどき感じる」を合わせると、就学前児童で14.5%、小学生児童で11.1%となっています。また、就学前児童では、「いつも感じる」と「ときどき感じる」は0～2歳で19.2%、小学生児童では、5・6年生で14.0%と高くなっています。
- 現在必要としている、重要だと思う支援については、就学前児童では「病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること」が27.2%、小学生児童では「子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できること」が20.2%と最も高くなっています。
- 近所の人との付き合いの程度では、就学前児童では「ほとんど付き合いはない」は0～2歳で18.2%、3～5歳で10.3%と小学生児童より高くなっています。
- 子育てが地域の人や社会に支えられていると思うかについては、就学前児童の0～2歳で「あまり感じない」と「まったく感じない」を合わせると39.4%と約4割となっています。
- 朝来市として、力を入れていくべき子育て支援については、就学前児童の各年齢、小学生児童の各学年ともに、第1位は「子育て家庭に対する経済的支援や優遇制度の充実」となっています。また、就学前では、「保育所サービスの内容や利用時間、多様な保育サービスの充実」、小学生児童では、「労働時間の短縮や職場環境の改善に向けた企業・事業主への啓発」が上位となっています。

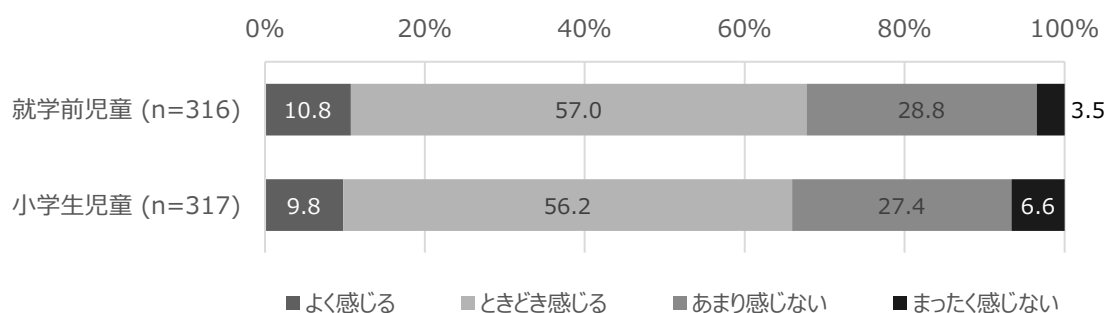
■「子育ては楽しい」との回答割合は非常に高い一方、経済的な問題や仕事と子育ての両立の困難さから日々の生活や気持ちにゆとりがなく、「子育てに不安や負担を感じている」保護者は6割を超えています。また、朝来市として、力を入れていくべき子育て支援の第1位は就学前児童、小学生児童ともに「子育て家庭に対する経済的支援や優遇制度の充実」があげられており、経済的、精神的負担を軽減していくことが必要です。

■子育てにおける孤立感では、就学前児童の保護者で、「あまり感じない」と「まったく感じない」を合わせると71.2%と高くなっていますが、「感じている」との回答割合は14.5%と小学生保護者より高く、近所の人との付き合いが「ほとんどない」との回答割合も1割を超えています。さらに子育てが地域の人や社会に支えられていると感じている人は、5割を超えている一方、感じないとする人は約3割となっています。現在必要としている、重要だと思う支援では、「病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること」が27.2%、小学生児童では「子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できること」が上位となっていることから、現在市で実施している様々な支援を周知していくとともに、地域内でのコミュニケーションを図り、地域全体で子育て世代を支えることが必要です。

◆子育ての感想



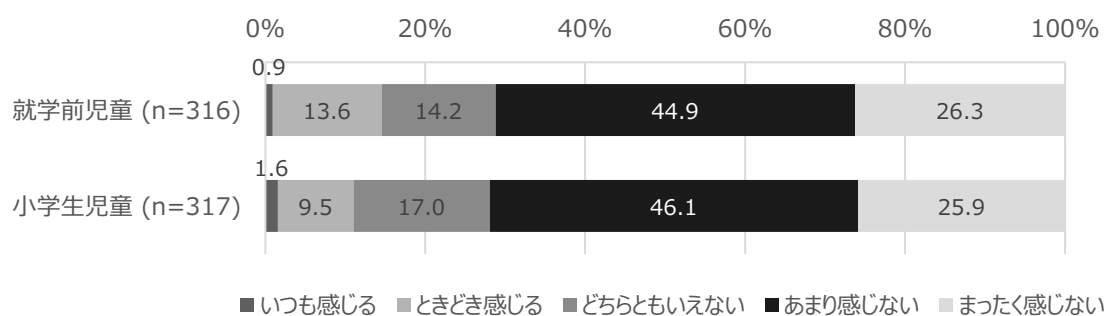
◆子育てについて不安や負担を感じる程度



◆子育てについて不安や負担を感じる理由 上位5項目

	1位	2位	3位	4位	5位
就学前児童	子育てにはお金がかかる 55.6%	生活や気持ちにゆとりがなく、 いらだつことがある 52.8%	子どもが思うように ならないとき、 いらだちを感じる 49.1%	仕事と子育ての 両立が難しい 37.4%	子どもの性格や癖 などが心配である 29.4%
小学生児童	子育てにはお金がかかる 56.9%	生活や気持ちにゆとりがなく、 いらだつことがある 54.5%	子どもの性格や癖 などが心配である 35.4%	子どもが思うように ならないとき、 いらだちを感じる 31.1%	仕事と子育ての 両立が難しい 25.4%

◆孤立感を感じる程度



(単位：%)

年 齢	いつも感じる	ときどき感じる	どちらともいえない	あまり感じない	まったく感じない
0～2歳	2.0	17.2	13.1	43.4	24.2
3～5歳	0.5	12.8	15.8	43.8	27.1

(単位：％)

学 年	いつも 感じる	ときどき 感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	まったく 感じない
１・２年生	0.0	5.8	19.2	46.2	28.8
３・４年生	1.0	7.9	14.9	49.5	26.7
５・６年生	2.4	11.6	17.7	43.9	24.4

◆現在必要としている、重要だと思う支援 上位3項目

	１位	２位	３位
就学前児童	病気や出産、事故などの 事情があったときに一時的に 子どもを預けられること 27.2%	就労のための支援が 受けられること 24.7%	住宅を探したり 住宅費を軽減したりするための 支援が受けられること
小学生児童	子どものことや生活のことなど 悩みごとを相談できること 20.2%	病気や出産、事故などの 事情があったときに一時的に 子どもを預けられること 17.7%	住宅を探したり 住宅費を軽減したりするための 支援が受けられること 17.4%

◆近所の人との付き合いの程度

(単位：％)

年 齢	何か困ったときに助 け合う人がある	お互いに訪問しあう 程度の人がある	立ち話をする 程度の人がある	あいさつをする程 度の人がある	ほとんど 付き合いはない
０～２歳	6.1	9.1	25.3	41.4	18.2
３～５歳	20.2	8.4	33.5	27.6	10.3

(単位：％)

学 年	何か困ったときに助 け合う人がある	お互いに訪問しあう 程度の人がある	立ち話をする 程度の人がある	あいさつをする程 度の人がある	ほとんど 付き合いはない
１・２年生	15.4	5.8	50.0	23.1	5.8
３・４年生	19.8	6.9	46.5	23.8	3.0
５・６年生	20.1	8.5	40.9	25.0	5.5

◆子育てが地域の人や社会に支えられていると思うか

(単位：％)

年 齢	非常に 感じている	ある程度 感じている	あまり 感じない	まったく 感じない
０～２歳	7.1	53.5	37.4	2.0
３～５歳	11.3	55.2	28.1	5.4

(単位：％)

学 年	非常に 感じている	ある程度 感じている	あまり 感じない	まったく 感じない
１・２年生	13.5	57.7	25.0	3.8
３・４年生	15.8	53.5	25.7	5.0
５・６年生	11.6	58.5	25.0	4.9

◆朝来市として、力を入れていくべき子育て支援 年齢別学年別上位5項目

	0～2歳	3～5歳
1位	子育て家庭に対する 経済的支援や優遇制度の充実	子育て家庭に対する 経済的支援や優遇制度の充実
	55.6%	52.7%
2位	保育所サービスの内容や 利用時間、多様な保育サービスの充実	保育所サービスの内容や 利用時間、多様な保育サービスの充実
	53.5%	42.9%
3位	労働時間の短縮や職場環境の改善に向けた 企業・事業主への啓発	学童クラブの実施、内容の充実
	31.3%	38.4%
4位	・認定こども園、 保育所(園)に通っていない 幼児向けの施策の充実 ・親子が安心して集える場や イベントなどの機会の充実	労働時間の短縮や職場環境の改善に向けた 企業・事業主への啓発
		32.5%
5位		親子が安心して集える場や イベントなどの機会の充実
	26.3%(同率4位)	29.6%

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
1位	・子育て家庭に対する 経済的支援や優遇制度の充実	子育て家庭に対する 経済的支援や優遇制度の充実	子育て家庭に対する 経済的支援や優遇制度の充実
		50.5%	53.7%
2位	・学童クラブの実施、 内容の充実	労働時間の短縮や 職場環境の改善に向けた 企業・事業主への啓発	労働時間の短縮や 職場環境の改善に向けた 企業・事業主への啓発
		42.3%(同率1位)	32.7%
3位	労働時間の短縮や 職場環境の改善に向けた 企業・事業主への啓発	親子が安心して集える場や イベントなどの機会の充実	・保育所サービスの内容や 利用時間、多様な保育サービスの 充実 ・学童クラブの実施、 内容の充実
	34.6%	29.7%	
4位	保育所サービスの 内容や利用時間、 多様な保育サービスの充実	子育てに関する学習教室や 講座の充実	
	26.9%	20.8%	
5位	親子が安心して集える場や イベントなどの機会の充実	保育所サービスの内容や 利用時間、多様な保育サービスの 充実	親子が安心して集える場や イベントなどの機会の充実
	21.2%	19.8%	15.9%

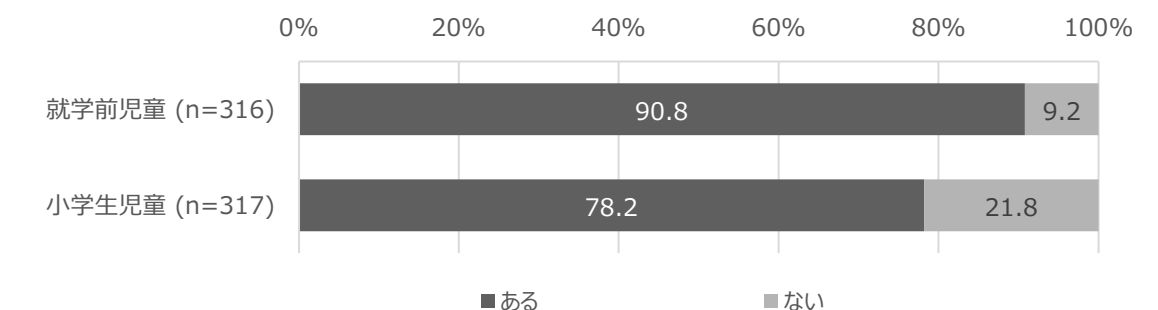
2 子育てにおける相談・情報

- 子育て(教育を含む)をする上で、身近に相談できる先の有無については、就学前児童では「ある」が90.8%、小学生児童では78.2%と高くなっている一方、「ない」はそれぞれ9.2%、21.8%となっています。
- 子育てに関する悩みや不安の相談先は、就学前児童、小学生児童ともに「配偶者・パートナー」、「その他の親族(親、兄弟姉妹など)」が高くなっており、就学前児童では8割、小学生児童では7割を超えています。
- 子育てに関する相談事業や相談窓口について、知っているもの、利用したことがあるものの上位は、就学前児童、小学生児童ともに「子育て学習センター」、「乳幼児相談」、今後利用したいと思うものでは、「子育て学習センター」、「教育相談・いじめ相談」となっています。
- 子育てに関する相談で特に重視することでは、就学前児童、小学生児童ともに第1位が「話しやすい雰囲気」、第2位が「専門的な情報の充実」となっています。
- 子育てに関する情報の入手先については、就学前児童、小学生児童ともに、「隣近所の人、地域の知人・友人、保護者仲間」が6割を超え高くなっており、「親族(親、兄弟姉妹など)」、「学校や認定こども園、保育所(園)」、「インターネット・SNS」などが上位を占めています。

■子育てについて、身近に相談できる先が「ない」人は、就学前児童で約1割、小学生児童で約2割となっています。本市では、子育てに関する悩みや不安の内容によって様々な相談先が用意されていますが、相談事業や相談窓口があることの認知度、利用度は高いとは言えません。しかし、今後の利用意向は、特に就学前児童で利用度よりも高くなっています。また、1 子育てを取り巻く状況にもあり、現在必要としている、重要だと思う支援では、小学生児童の第1位が「子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できること」となっていることから、相談事業や相談窓口を周知していくことが必要です。

■子育てに関する相談で特に重視することでは、就学前児童、小学生児童ともに「話しやすい雰囲気」、「専門的な情報の充実」が上位となっていることから、相談窓口の対応スキルをあげていくことも必要です。

◆子育て(教育を含む)をする上で、身近に相談できる先の有無



(単位：%)

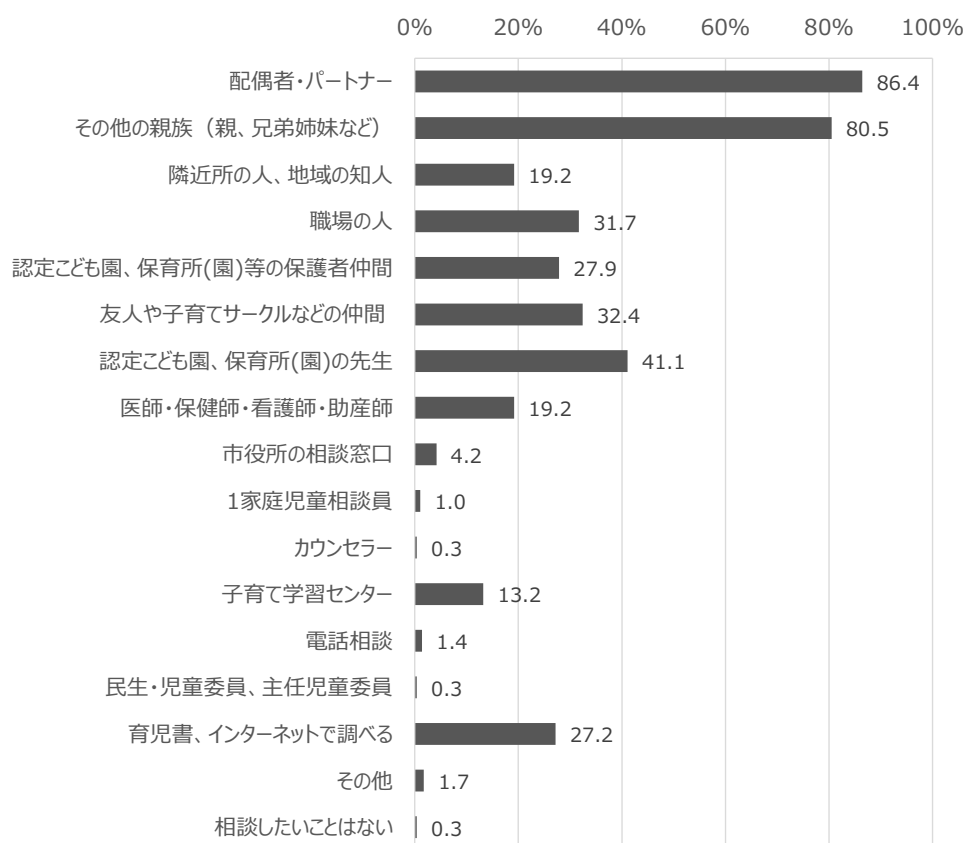
年 齢	ある	ない
0～2歳	88.9	11.1
3～5歳	91.6	8.4

(単位：%)

学 年	ある	ない
1・2年生	80.8	19.2
3・4年生	74.3	25.7
5・6年生	79.9	20.1

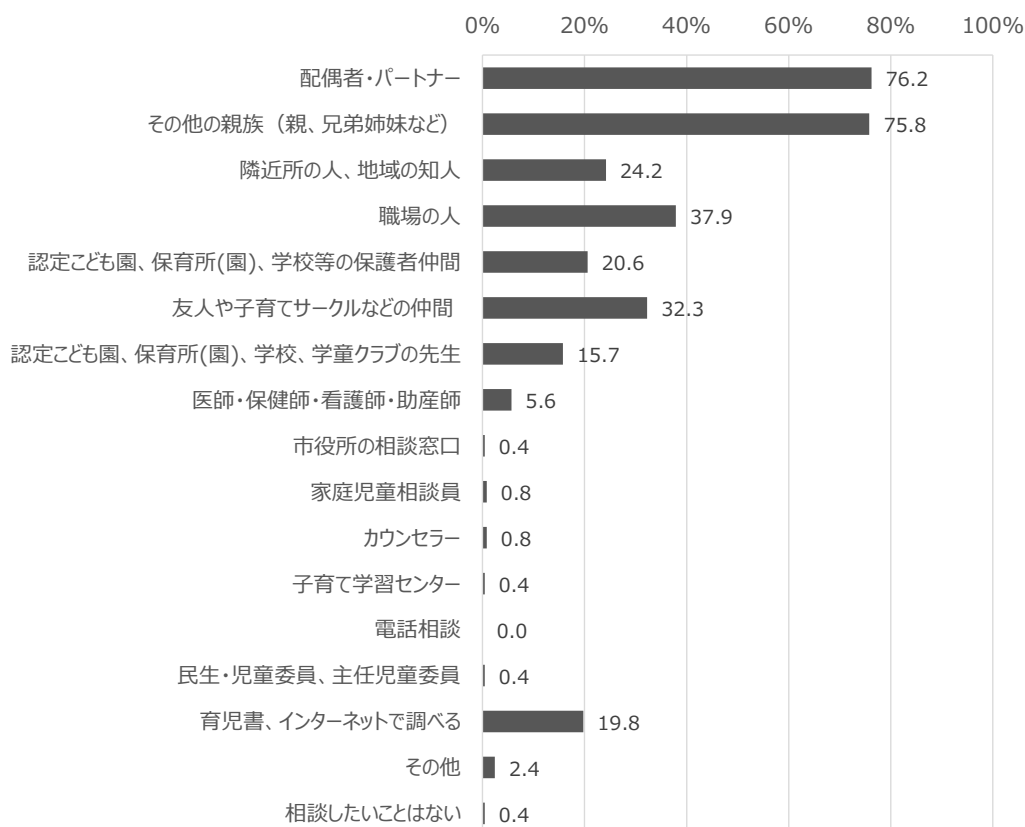
◆子育てに関する悩みや不安の相談先

【就学前児童】



n=287

【小学生児童】



n=248

◆相談事業や相談窓口について 上位3項目

就学前児童	1位	2位	3位
知っているもの	子育て学習センター	産前・産後サポート事業	乳幼児相談
	90.8%	82.3%	80.7%
利用したことがあるもの	子育て学習センター	産前・産後サポート事業	乳幼児相談
	58.5%	43.0%	40.2%
今後利用したいと思うもの	子育て学習センター	乳幼児相談	教育相談・いじめ相談
	69.0%	58.9%	56.0%

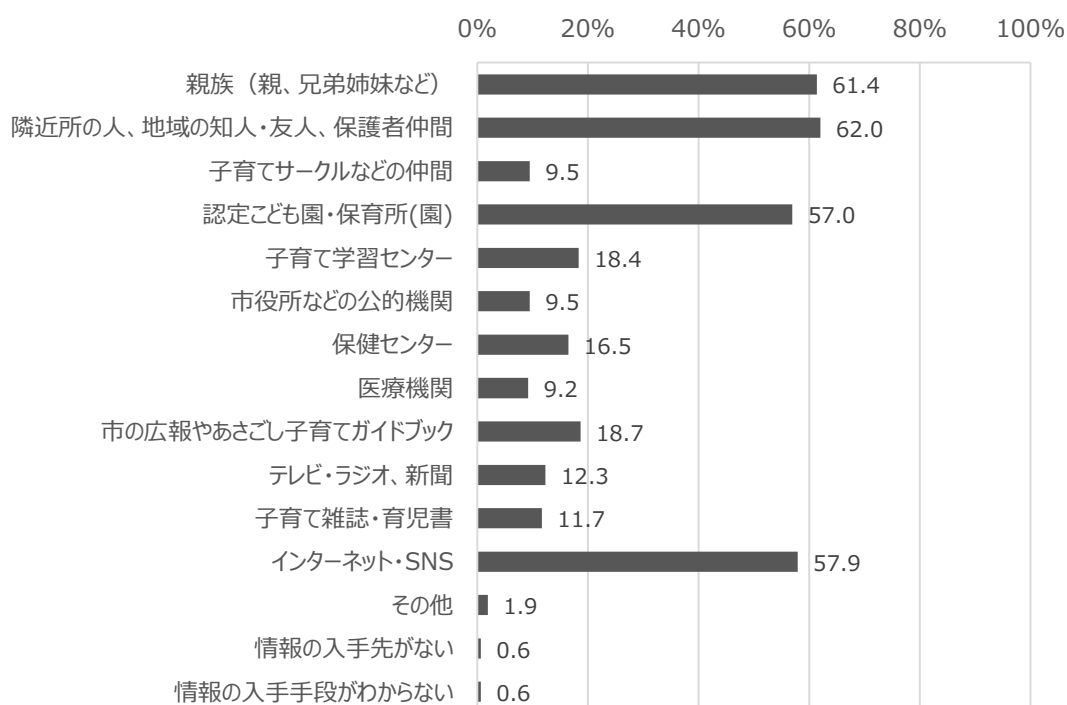
小学生児童	1位	2位	3位
知っているもの	子育て学習センター	乳幼児相談	保育施設の利用相談
	75.7%	66.2%	59.6%
利用したことがあるもの	子育て学習センター	乳幼児相談	保育施設の利用相談
	41.6%	22.4%	
今後利用したいと思うもの	教育相談・いじめ相談	子育て学習センター	電話育児相談
	29.3%	24.3%	20.2%

◆子育てに関する相談で特に重視すること 上位3項目

	1位	2位	3位
就学前児童	話しやすい雰囲気	専門的な情報の充実	安心して相談できる環境が整っている
	75.3%	41.5%	40.2%
小学生児童	話しやすい雰囲気	専門的な情報の充実	職員の対応スキルの高さ
	62.1%	46.7%	35.3%

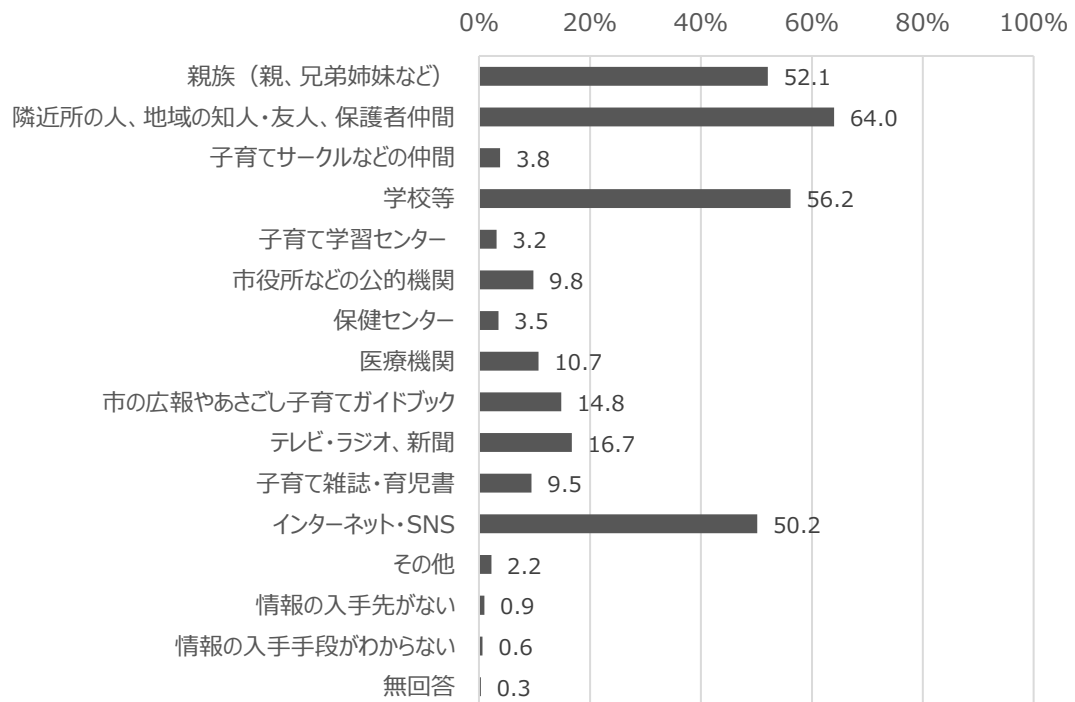
◆子育てに関する情報の入手先

【就学前児童】



n=316

【小学生児童】



n=317

3 定期的な教育・保育事業、ファミリー・サポート・センター事業の利用状況

- 定期的な教育・保育の事業の利用状況については、「利用している」が0～2歳で44.4%、3～5歳で95.1%となっています。
- 定期的に利用している教育・保育事業については、「認定こども園」が0～2歳で72.7%、3～5歳で93.3%とそれぞれ最も高くなっています。
- 利用していない人に聞いた定期的に利用したい事業については、「認定こども園」が0～2歳で90.9%、3～5歳で100.0%とそれぞれ最も高くなっています。
- ファミリー・サポート・センター事業の認知度については、就学前児童では「知らない」が34.5%、小学生児童では58.4%となっています。
- ファミリー・サポート・センター事業の利用状況については、「利用したことがある」が就学前児童で2.4%(5人)、小学生児童で0.8%(1人)となっています。また、「会員登録はしているが、実際に利用したことはない」は就学前児童で6.8%(14人)、小学生児童で1.5%(2人)となっています。
- ファミリー・サポート・センター事業の利用における不安や心配の有無については、就学前児童では「ある」が58.9%、小学生児童では61.8%と約6割と高くなっています。
- ファミリー・サポート・センター事業の利用における不安や心配については、就学前児童年齢別、小学生児童学年別すべてで「預かってくれる人がどんな人柄なのかわからない」が9割前後と高くなっています。
- ファミリー・サポート・センター事業の今後の利用意向については、就学前児童、小学生児童ともに、「わからない」が6割弱と多くなっていますが、「(利用したいと思う)」は就学前児童で16.8%、小学生児童で5.0%となっています。

■ 現在、定期的に教育・保育事業を利用していない人の利用したい事業は、「認定こども園」が9割以上となっており、受け入れ体制を構築しておく必要があります。

■ ファミリー・サポート・センター事業は、令和5年から新規事業として立ち上げた事業で、まだ間もないことから、利用している人、会員登録している人も多いとは言えません。また、事業自体を「知らない」人は就学前児童で34.5%、小学生児童で58.4%となっています。しかし、今後の利用意向では、「わからない」が就学前児童、小学生児童ともに約6割と高くなっていますが、「(利用したいと思う)」は就学前児童で16.8%、小学生児童で5.0%となっています。本事業の利用における不安や心配は、就学前児童、小学生児童ともに「預かってくれる人がどんな人柄なのかわからない」が9割前後と高くなっています。また、その他意見では、個人情報の取り扱いや情報漏洩、預かってくれる人の専門知識や保有資格の有無を心配する意見もありました。

今後本事業の利用促進のためには、利用に向けた手順やまかせて会員の情報開示など、保護者が安心して子どもを預けられるよう正しい情報を提供していくことが重要です。

◆ 定期的な教育・保育の事業の利用状況

(単位：%)

年 齢	利用している	利用していない
0～2歳	44.4	55.6
3～5歳	95.1	4.9

◆定期的に利用している教育・保育の事業

(単位：%)

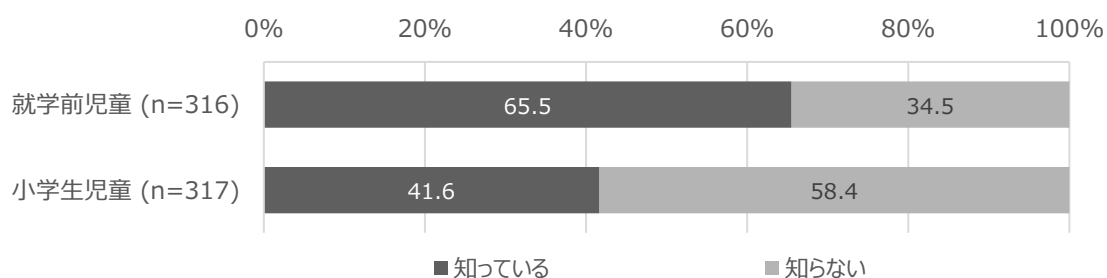
年 齢	認定こども園	保育所(園)	預かり保育	発達に支援が必要な 子どものための通所施設	子育て 学習センター等	その他
0～2歳	72.7	20.5	4.5	0.0	13.6	2.3
3～5歳	93.3	7.3	1.0	3.6	3.1	0.0

◆定期的に利用したい教育・保育の事業

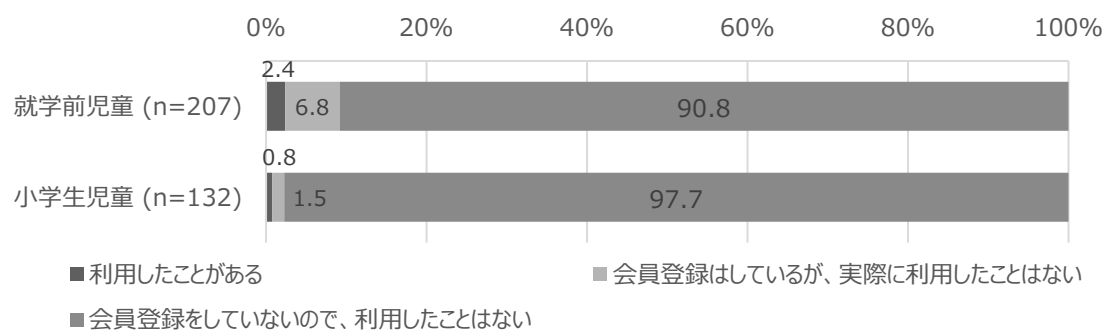
(単位：%)

年 齢	認定 こども園	保育所(園)	預かり 保育	発達に支援が必要な 子どものための通所施設	子育て 学習センター等	今後も 利用希望はない
0～2歳	90.9	34.5	25.5	3.6	38.2	3.6
3～5歳	100.0	20.0	30.0	0.0	70.0	0.0

◆ファミリー・サポート・センター事業の認知度

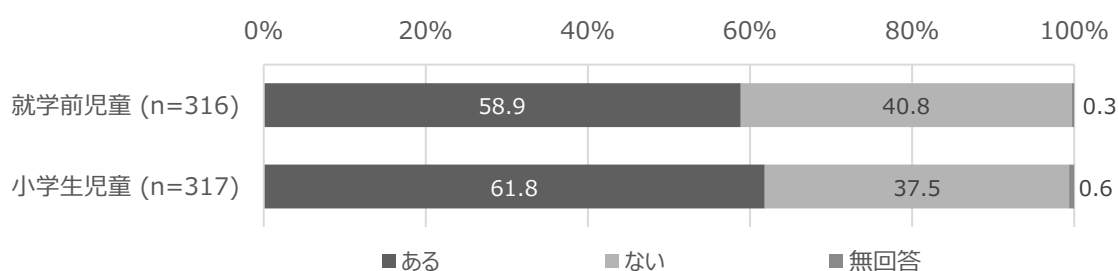


◆ファミリー・サポート・センター事業の利用状況



◆ファミリー・サポート・センター事業の利用における不安や心配の有無

【就学前児童・小学生児童】

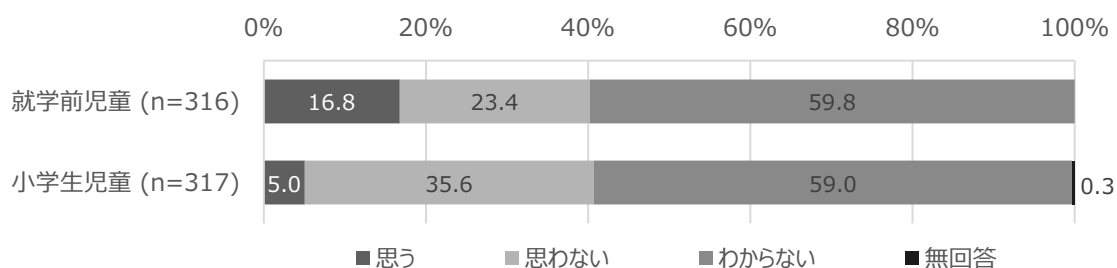


◆ファミリー・サポート・センター事業の利用における不安や心配 年齢別学年別順位

	0～2歳	3～5歳
1位	預かってくれる人がどんな人柄なのかわからない	預かってくれる人がどんな人柄なのかわからない
	88.7%	88.9%
2位	しつけやサポート内容など援助範囲がわからない	預かってくれる人に迷惑をかけるのではないかな
	53.2%	37.6%
3位	病気・体調の変化やけがもなく、快適に過ごせているか	しつけやサポート内容など援助範囲がわからない
	37.1%	34.2%
4位	預かってくれる人に迷惑をかけるのではないかな	病気・体調の変化やけがもなく、快適に過ごせているか
	22.6%	23.9%

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
1位	預かってくれる人がどんな人柄なのかわからない	預かってくれる人がどんな人柄なのかわからない	預かってくれる人がどんな人柄なのかわからない
	97.1%	86.6%	88.3%
2位	預かってくれる人に迷惑をかけるのではないかな	・かってくれる人に迷惑をかけるのではないかな ・しつけやサポート内容など援助範囲がわからない	預かってくれる人に迷惑をかけるのではないかな
	57.1%		39.4%
3位	病気・体調の変化やけがもなく、快適に過ごせているか		しつけやサポート内容など援助範囲がわからない
	54.3%	37.3%(同率2位)	33.0%
4位	しつけやサポート内容など援助範囲がわからない	病気・体調の変化やけがもなく、快適に過ごせているか	病気・体調の変化やけがもなく、快適に過ごせているか
	45.7%	34.3%	29.8%

◆ファミリー・サポート・センター事業の今後の利用意向



4 子どもの病気の際の対応について

- この1年間に、子どもが病気やケガで事業を利用できなかったことや学校を休まなければならなかったことの有無については、就学前児童では「あった」が33.5%、小学生児童では76.7%となっています。
- 子どもが病気やケガで事業を利用できなかったり学校を休まなければならなかった時の病児・病後児のための保育施設やその他施設の利用意向については、就学前児童では、「できれば利用したいと思った」が43.4%、小学生児童では「病気中の子どものための施設を利用したいと思った」が14.4%、「病気回復期の子どものための施設を利用したいと思った」が10.3%となっています。
- 子どもが病気やケガで事業を利用できなかったり学校を休まなければならなかった時の対処法では、就学前児童、小学生児童ともに、「母親が仕事を休んだ」が7割を超え高く、次いで「祖父母などの親族や近所の人、友人等にみてもらった」となっています。
- 不定期の一時預かり等の事業の利用意向については、「利用したい」が0～2歳は52.5%、3～5歳は32.0%となっています。
- 「こども誰でも通園制度」※が開始された場合の利用意向については、「利用したい」が55.4%と5割を超えています。
- こども誰でも通園制度を利用したい理由については、「用事がある時に預けたい」、「育児への負担感を軽減するため」、「同年齢の子どもとの関わる機会がほしい」が上位となっています。
- こども誰でも通園制度を利用する場合の年齢については、「2歳～3歳未満」が66.9%、「1歳～2歳未満」が65.7%、「0歳6か月から1歳未満」が38.9%となっています。

■子どもが病気やケガで事業を利用できなかったことや学校を休まなければならなかった時の対処法では、就学前児童、小学生児童ともに、「母親が仕事を休んだ」が7割を超え高く、「病児・病後児保育を実施している施設を利用した」は低くなっていますが、施設の利用意向は就学前で4割強、小学生児童で約2.5割となっています。利用したいと思わない理由としては、「親が仕事を休んで対応する」、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が高くなっている一方、その他の意見では、「利用するための手続きや条件が厳しい」、「利用時間の制限」などを理由にあげている人もいます。

■令和8年度から各自治体で導入される予定となっている「こども誰でも通園制度」については、現状では利用意向は5割を超え高くなっており、利用する場合の年齢では「2歳～3歳未満」、「1歳～2歳未満」とともに6割を超えています。現在不定期の一時預かり等の事業も実施しており、この事業も0～2歳を中心に利用意向は高くなっています。

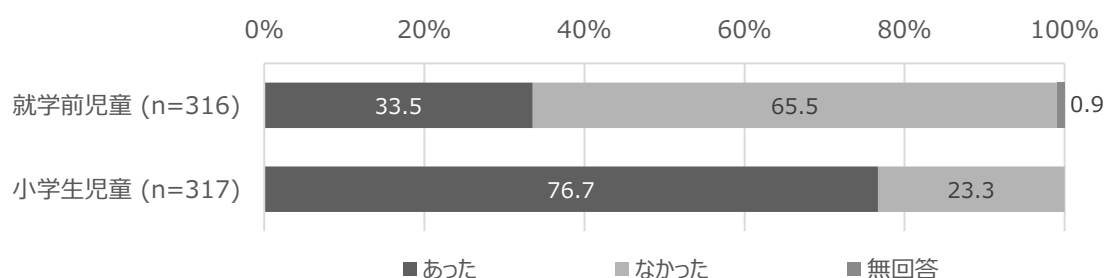
今後はこども誰でも通園制度の導入に向け、不定期の一時預かり等の事業との差別化など整理していくことも必要です。

※こども誰でも通園制度

令和8年度にすべての自治体で本格実施することとなっている制度で、就学前児童を対象に、親の就労状況に関わらず、毎月一定時間保育を利用することができます。

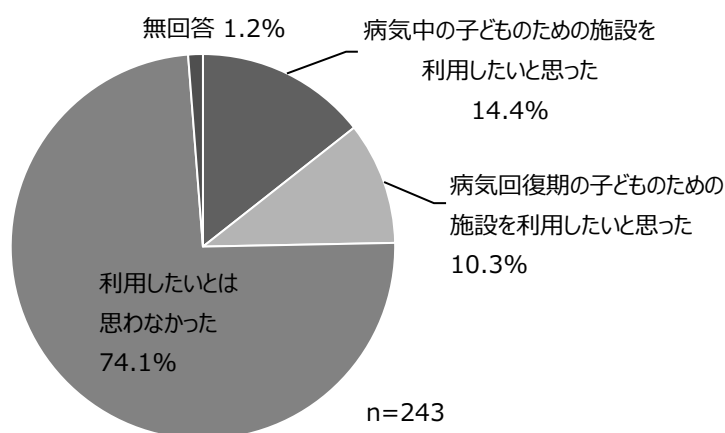
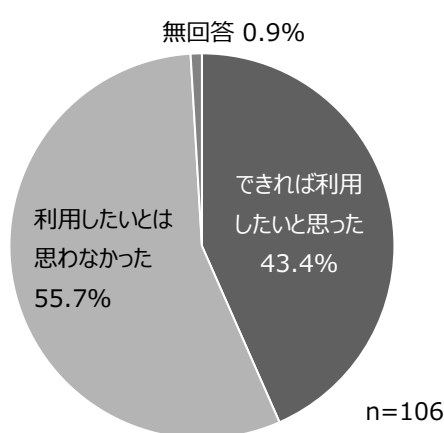
具体的な事業の要綱は今後提示される見込みです。一時預かり事業と混同されることが多い事業ですが、利用にあたって就労状況が要件とならないことや、毎月の利用に上限があるなどの違いがあります。

◆この1年間に、子どもが病気やケガで事業を利用できなかったことや学校を休まなければなら
ないことの有無



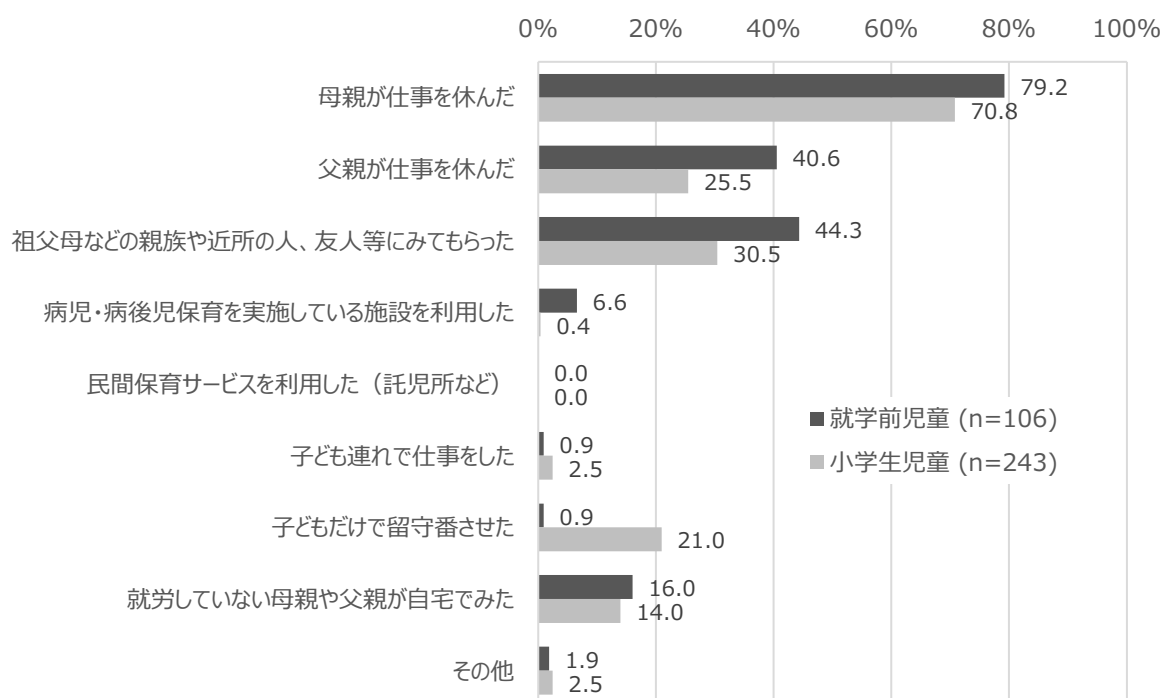
◆子どもが病気やケガで事業を利用できなかったり学校を休まなければならなかった時の病児・病
後児のための保育施設やその他施設の利用意向

【就学前児童】【小学生児童】



◆子どもが病気やケガで事業を利用できなかったり学校を休まなければならなかった時の対処法

【就学前児童・小学生児童】

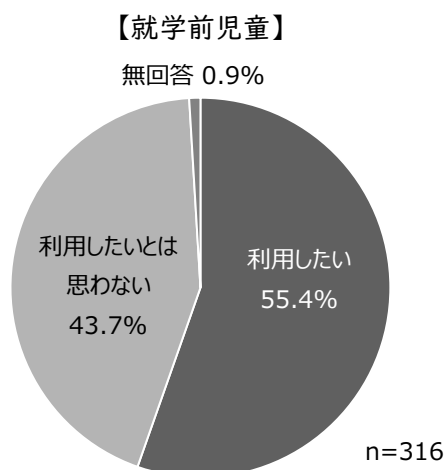


◆不定期の一時預かり等の事業の利用意向

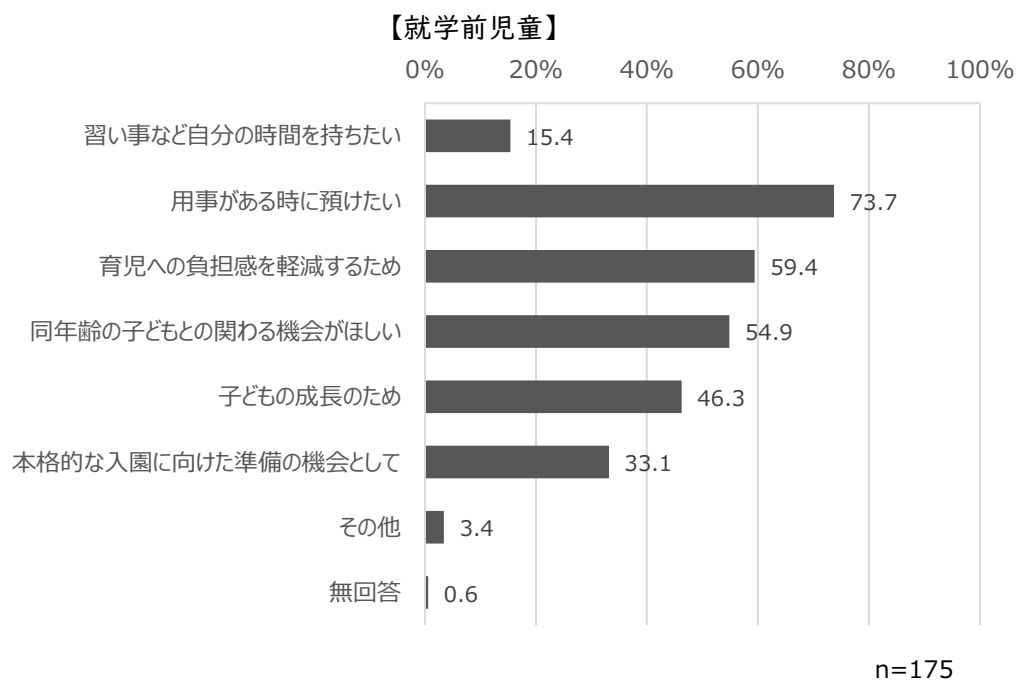
(単位：％)

年 齢	利用したい	利用する必要はない	無回答
0～2歳	52.5	46.5	1.0
3～5歳	32.0	68.0	0.0

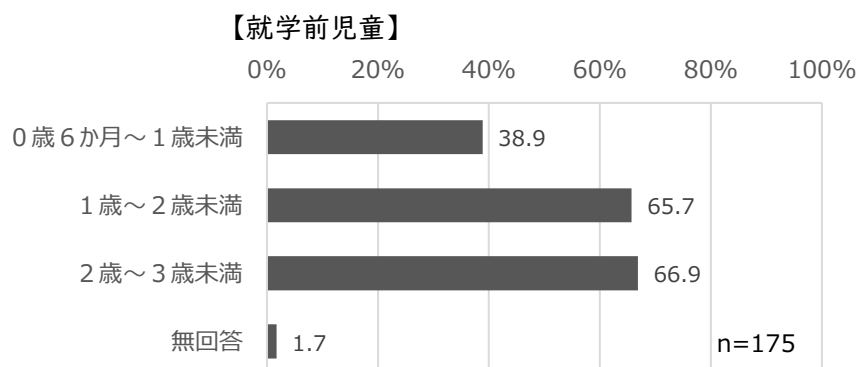
◆こども誰でも通園制度の利用意向



◆こども誰でも通園制度を利用したい理由



◆こども誰でも通園制度の利用年齢



5 放課後の過ごし方

- 放課後、子どもを過ごさせたい場所については、各学年とも第1位は「自宅」で学年が上がるにつれて高くなっています。また、1・2年生、3・4年生では第2位は「学童クラブ」でそれぞれ34.1%、24.9%となっています。
- 学童クラブの利用状況については、「利用している」が1・2年生では61.5%と高くなっていますが、学年が上がるにつれて低くなり、5・6年生では12.8%となっています。
- 土曜日、日曜日・祝日では、学年別でみると1・2年生で「ほぼ毎日」が最も高く、それぞれ33.3%、20.0%となっています。また、3・4年生、5・6年生では「月に1～2回」が7割を超え高くなっています。夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中については、「ほぼ毎日」が1・2年生で93.3%、3・4年生で76.9%と高くなっています。
- 子どもの放課後の居場所に必要だと思うものについては、各学年ともに「大人の見守りによる安全・安心な居場所」が高くなっています。

■各学年とも、放課後、子どもを過ごさせたい場所は、「自宅」が多いものの、1～4年生では、「学童クラブ」のニーズが高くなっています。また、夏休み、冬休みなどの長期休暇中は、「ほぼ毎日」が非常に高くなっています。さらに、子どもの放課後の居場所で必要だと思われるものの上位に、「大人の見守りによる安全・安心な居場所」が6割を超え高くなっていることから、引き続き、安全・安心な学童クラブの取組みを充実させるとともに、児童が安全に過ごせることができる居場所づくりを進めていくことが重要です。

◆放課後、子どもを過ごさせたい場所 上位5項目

	1・2年生	3・4年生	5・6年生
1位	自宅	自宅	自宅
	41.0%	56.8%	72.2%
2位	学童クラブ	学童クラブ	学習塾や習い事
	34.1%	24.9%	24.0%
3位	祖父母宅や友人・知人宅	学校や地域でのクラブやスポーツ活動	学校や地域でのクラブやスポーツ活動
	17.4%	19.6%	20.8%
4位	学校や地域でのクラブやスポーツ活動	学習塾や習い事	祖父母宅や友人・知人宅
	14.2%	18.9%	18.9%
5位	学習塾や習い事	祖父母宅や友人・知人宅	学童クラブ
	13.6%	17.4%	9.1%

◆学童クラブの利用状況

(単位：%)

学 年	利用している	利用していない
1・2年生	61.5	38.5
3・4年生	28.7	71.3
5・6年生	12.8	87.2

◆休暇期間中の学童クラブの利用希望

土曜日の利用希望

(単位：％)

学 年	ほぼ毎週	月に１～２回	無回答
１・２年生	33.3	63.3	3.3
３・４年生	28.2	71.8	0.0
５・６年生	7.7	92.3	0.0

日曜日・祝日の利用希望

(単位：％)

学 年	ほぼ毎週	月に１～２回	無回答
１・２年生	20.0	76.7	3.3
３・４年生	12.8	87.2	0.0
５・６年生	3.8	96.2	0.0

夏休み・冬休みなどの利用希望

(単位：％)

学 年	ほぼ毎日	週に数日	無回答
１・２年生	93.3	3.3	3.3
３・４年生	76.9	23.1	0.0
５・６年生	44.2	55.8	0.0

◆子どもの放課後の居場所に必要だと思うもの 上位３項目

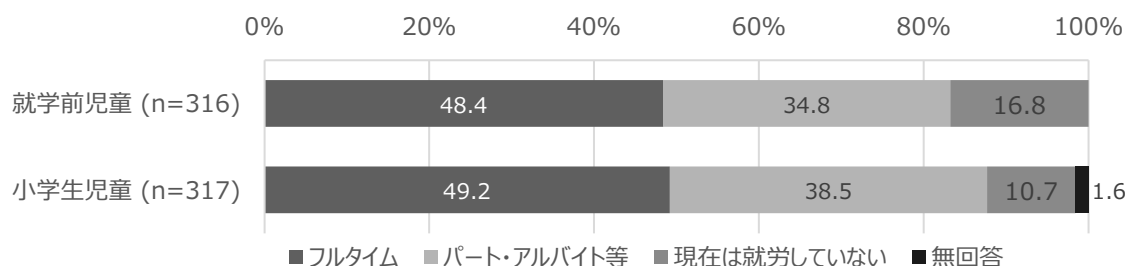
	１・２年生	３・４年生	５・６年生
１位	大人の見守りによる 安全・安心な居場所	大人の見守りによる 安全・安心な居場所	大人の見守りによる 安全・安心な居場所
	73.8％	63.8％	74.4％
２位	自由遊び	自由遊び	文化系の習い事
	40.5％	31.3％	29.8％
３位	学びのきっかけとなる体験活動	学びのきっかけとなる体験活動	・学びのきっかけとなる体験活動 ・自由遊び
	26.2％	23.8％	26.4％(同率３位)

6 母親・父親の就労状況

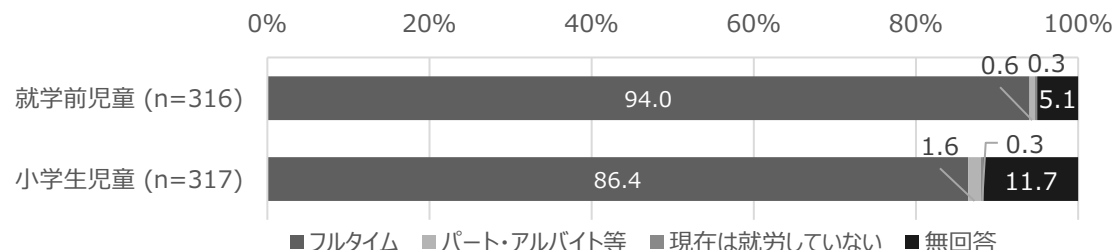
- 母親の就労状況については、就学前児童、小学生児童ともに、「フルタイム」が5割弱、「パート・アルバイト等」が3.5割前後となっており、就労している割合は8割を超えています。また、父親の就労状況については、「フルタイム」が高く、就学前児童で94.0%、小学生児童で86.4%となっています。
- 就学前児童の母親の育児休業の取得状況については、「取得した」が58.2%、父親は12.3%となっています。
- 育児休業取得後の職場への復帰状況については、母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が71.7%、父親は97.4%となっています。なお、「育児休業中に退職した」は、母親で4.9%、父親で2.6%(1人)となっています。

■育児休業制度の取得状況は、母親が58.2%、父親が12.3%となっている一方、育児休業を取得していないは、母親が10.1%、父親が82.6%となっており、その理由をみると、育児休業制度自体がない、制度があっても職場環境が取得できるような雰囲気ではない、会社が取得を認めないことや人員不足、業務多忙のため取得できないなどの意見が多数あったことから、企業に向けた育児休業制度の導入整備、取得しやすい職場環境(上司の配慮、同僚の協力)を促進していく必要があります。

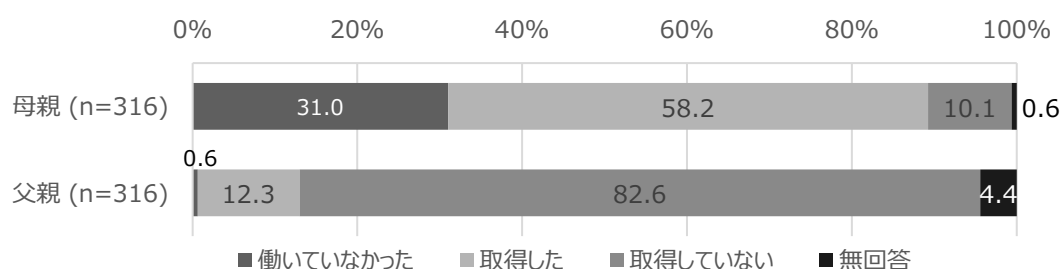
◆母親の就労状況



◆父親の就労状況

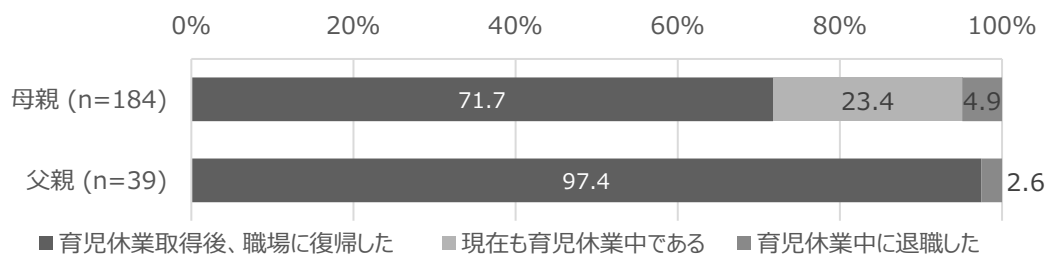


◆母親、父親の育児休業取得状況:就学前児童



◆育児休業取得後の職場への復帰状況

【就学前児童】



育児休業を取得していない主な理由
仕事が休める状況ではなかった。/仕事が忙しくて取れなかった。
自営業なので取ることができない。
職場に代われる人員の余裕がなかった。/人員不足でとれる雰囲気ではなかった。/従業員が少ない。
育休制度が会社になかった。
厳しい仕事場で男性の育休などあり得ない雰囲気だった。/職場が育休を取れる雰囲気ではない。/育休をとれる環境ではなかったから。/職場で前例がなく取りづらい雰囲気だった。/中小企業で気持ちよく育休をとれる会社ではないため。/取りにくい環境/制度があまり浸透しておらず、取得しにくかった。
生活のために働かなければならなかった。/金銭的負担。
会社がとらせてくれなかった。/会社が認めてくれなかった。/育児休暇が取れない。

7 子育て支援

- 住んでいる地域の子育て環境について「そう思わない」との回答が多い項目は、就学前児童、小学生児童ともに、第1位が「気軽に利用できる遊び場が整っている」、第2位が「公共施設や道路が子育てに配慮されている」、第3位が「同世代の子どもが近所に多い」となっています。
- 子育て支援事業で「知らない」が多いのは、「家庭教育に関する学級・講座」(85.4%)、「利用者支援事業」(84.8%)、「家庭児童相談室」(72.2%)、「こども教育支援センター・教育相談室」(65.2%)となっています。
- 利用したことがないが多い事業は、「家庭児童相談室」(97.5%)、「利用者支援事業」(96.8%)、「家庭教育に関する学級・講座」(95.9%)、「障がい児相談・児童発達支援事業等」(92.4%)、「こども教育支援センター・教育相談室」(89.9%)となっています。
- 今後利用したいと思うが多い事業は、「地域の子ども会」(60.1%)、「市の広報やあさごし子育てガイドブック」(59.8%)、「子育て学習センター」(56.6%)、「保育園や認定こども園の園庭等の開放」(53.5%)、「保健センターの情報・相談サービス」(50.6%)となっています。

■住んでいる地域の子育て環境について、各項目で「そう思わない」との回答が最も多かったのは、就学前児童、小学生児童ともに「気軽に利用できる遊び場が整っている」で、5割を超えています。また、自由意見でも、公園の遊具を充実させてほしい、雨の日や冬場に屋内で遊べる場所、子どもが安全に遊べるスペースがほしい、子連れて遊びに行ける施設などの声が多数あがっていることから、新たに整備した公園等の周知方法の工夫や、屋内で遊べる場所の検討を進める必要があります。

■市では、様々な子育て支援事業を展開していますが、事業自体を知らないとする人の割合が高い事業もあります。それにより、利用したことがある事業も高くはありませんが、今後の利用意向は決して低くはありません。今後は、各子育て支援事業を周知し、必要に応じて利用してもらえるよう情報提供していくことが必要です。

◆住んでいる地域の子育て環境「そう思わない」上位5項目

	1位	2位	3位	4位	5位
就学前児童	気軽に利用できる遊び場が整っている 52.5%	公共施設や道路が子育てに配慮されている 52.2%	同世代の子どもが近所に多い 44.6%	子育てに関する情報が豊富 38.6%	子ども会、子育てサロンなどの活動が盛ん
小学生児童	気軽に利用できる遊び場が整っている 57.1%	公共施設や道路が子育てに配慮されている 49.2%	同世代の子どもが近所に多い 42.6%	子ども会、子育てサロンなどの活動が盛ん 38.8%	子育てに関する情報が豊富 37.5%

◆子育て支援事業について 上位5項目

	1位	2位	3位	4位	5位
就学前児童					
知らない事業	家庭教育に関する学級・講座 85.4%	利用者支援事業 84.8%	家庭児童相談室 72.2%	こども教育支援センター・教育相談室 65.2%	障がい児相談・児童発達支援事業等 49.4%
利用したことがない事業	家庭児童相談室 97.5%	利用者支援事業 96.8%	家庭教育に関する学級・講座 95.9%	障がい児相談・児童発達支援事業等 92.4%	こども教育支援センター・教育相談室 89.9%
今後利用したい事業	地域の子ども会 60.1%	市の広報やあさごし子育てガイドブック 59.8%	子育て学習センター 56.6%	保育園や認定こども園の園庭等の開放 53.5%	保健センターの情報・相談サービス 50.6%

8 その他

- 生活の経済的なゆとりについては、「あまりない」と「まったくない」を合わせると、就学前児童では47.5%、小学生児童では52.7%と約半数の世帯でゆとりが「ない」と回答しています。
- 子どもへの用意が難しいことでは、就学前児童、小学生児童ともに、第1位から3位までは同じで、「希望すれば大学・専門学校等への進学」、「塾や習い事に通うこと」、「キャンプなど自然体験活動への参加」となっています。
- 希望する子どもの将来の進学先については、就学前児童、小学生児童ともに、「大学・短大」、「専門学校」が高く、合わせるとそれぞれ77.3%、74.1%となっています。
- ヤングケアラーと思われる子どもの存在については、「家族・親族にいる」、「友人・知人のお子さんにいる」を合わせると、就学前児童では6.7%、小学生児童では5.7%となっています。
- ヤングケアラーに関して相談しやすい環境づくりとして必要なことについて、最も高かったのは、就学前児童では「24時間いつでも相談できること」が59.2%、小学生児童では、「学校に相談窓口があること」、「電話やメール、SNSでの相談が可能であること」がともに52.4%となっています。

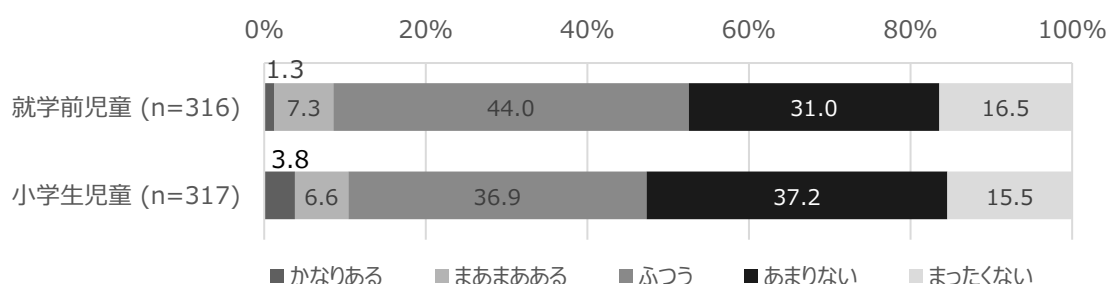
■生活の経済的なゆとりについては、約半数の世帯で「あまりない」、「まったくない」と回答しています。子育てを取り巻く状況にもあるとおり、朝来市として、力を入れていくべき子育て支援では、「子育て家庭に対する経済的支援や優遇制度の充実」が最も高くなっていることや子育てについて不安や負担を感じている理由で、就学前児童、小学生児童ともに、「子育てにはお金がかかる」が5割を超え最も高くなっていることから、今後何らかの経済的支援策を検討していく必要があります。

■ヤングケアラーと思われる子どもの存在については、「家族・親族にいる」、「友人・知人のお子さんにいる」を合わせると、就学前児童では6.7%、小学生児童では5.7%となっています。ヤングケアラーに関して相談しやすい環境づくりとして必要なことについては、就学前児童では「24時間いつでも相談できること」、小学生児童では「学校に相談窓口があること」、「電話やメール、SNSでの相談が可能であること」が最も高くなっています。

本市では、ヤングケアラー支援の相談窓口を設置していますが、兵庫県の「ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」等の関係機関とも連携し、対応を強化していくことが重要です。

また、社会全体でヤングケアラーに対する認知度の向上を図るとともに、自分自身がヤングケアラーであるという自覚がないことが特徴の一つとなっていることから、日常生活における子どもの様子に周囲が気づいてあげることも重要です。

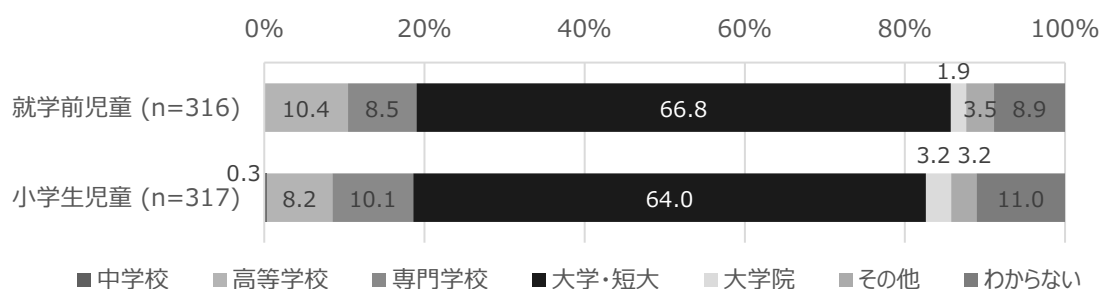
◆生活の経済的なゆとりの有無



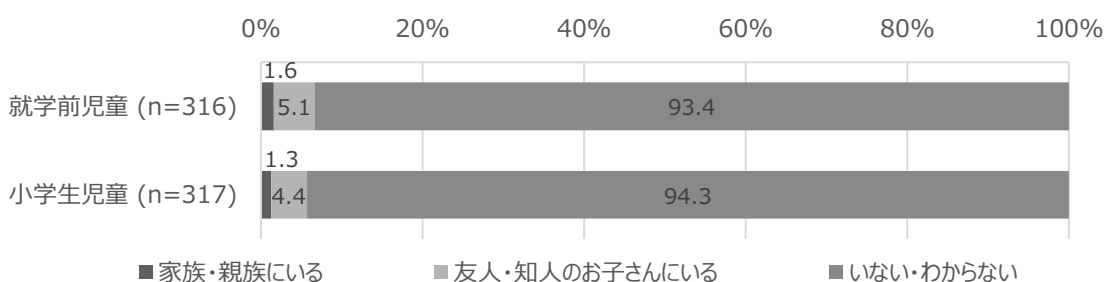
◆子どもへの用意が難しいこと 上位5項目

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
就学前児童	希望すれば大学・専門学校等への進学	塾や習い事に通うこと	キャンプなど自然体験活動への参加	地域のスポーツ活動への参加	適当なおこづかい
	25.0%	24.7%	16.1%	14.9%	12.3%
小学生児童	希望すれば大学・専門学校等への進学	塾や習い事に通うこと	キャンプなど自然体験活動への参加	適当なおこづかい	地域のスポーツ活動への参加
	25.6%	18.0%	14.5%	12.3%	10.1%

◆希望する子どもの将来の進学先



◆ヤングケアラーと思われる子どもの存在



◆ヤングケアラーに関して相談しやすい環境づくりとして必要なこと

